

# SPARC T4-1B サーバーモジュール

## ご使用の手引き

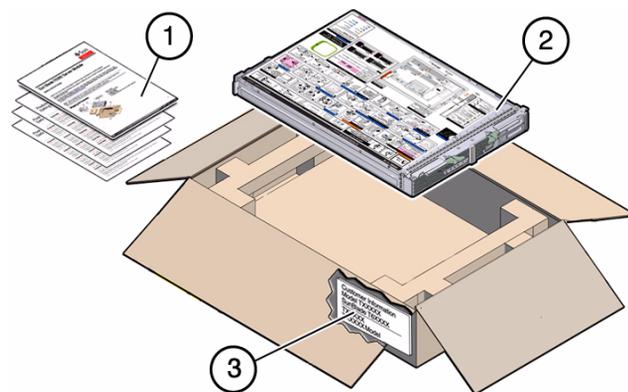
このマニュアルでは、Oracle の SPARC T4-1B サーバーモジュールをはじめて設置して電源を投入するために必要な、最小限の手順について説明します。

このマニュアルに記載された手順を実行する前に、以下のドキュメントを確認してください。

- Sun Blade 6000 モジュラーシステム設定ガイド – Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシを設置したあとでサーバーモジュールを設置する際にお読みください。
- オンラインの『SPARC T4-1B サーバーモジュールご使用に当たって』 – 最近判明した問題が設置要件に影響を及ぼすのかどうかを、これでご確認ください。
- オンラインの『SPARC T4-1B サーバーモジュール設置マニュアル』 – より詳細な設置情報が必要な場合に参照してください。
- 『Sun ハードウェアシステムの重要な安全性に関する情報』 (出荷キットに同梱) およびオンラインの『SPARC T4-1B Server Module Safety and Compliance Manual』 – 安全に関する事項を記載しています。

上記ドキュメントの入手方法については、[6 ページの「関連ドキュメント」](#)を参照してください。

## 出荷内容



- 
- 1 印刷ドキュメント
  - 2 サーバーモジュール
  - 3 出荷ダンボールに貼られている顧客情報シート (MAC アドレスその他の情報が記載されていますので、大切に保管しておいてください)
-

## ▼ オプションのコンポーネントを取り付ける

- ◆ サーバーモジュールをモジュラーシステムのシャーシに取り付ける前に、サーバーモジュール用に注文したオプションのコンポーネントを取り付けます。

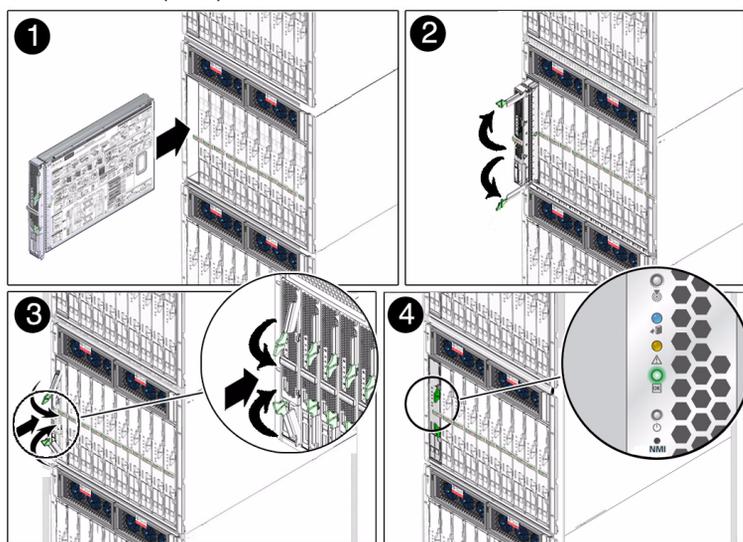
オプションのコンポーネントは、受け取ったサーバーモジュールにインストール済みです。詳細は、顧客情報シートを参照してください。オプションのコンポーネントの取り付け手順については、各コンポーネントのドキュメントおよび『SPARC T4-1B サーバーモジュールサービスマニュアル』を参照してください。

## ▼ サーバーモジュールをシャーシに取り付ける

サーバーモジュールは、ホットプラグによってシャーシに取り付けることができます。本書に示す手順では、Sun Blade 6000 モジュラーシステムが設置され稼働中であることを前提とします。

**注意** – 冷却に関する制限に準拠するため、フィルターパネルを取り外してから 60 秒以内にサーバーモジュールをシャーシに取り付ける必要があります。

1. サーバーモジュールを箱から取り出します。
2. サーバーモジュール背面から保護用のコネクタカバーを取り外します。
3. シャーシ内の対象のサーバーモジュールスロットから、フィルターパネルを取り外します。
4. 取り外しレバーが右側にくるようにして、約 1.5 cm (0.5 インチ) の位置まで、シャーシにサーバーモジュールを挿入します (図 1)。



5. 取り外しレバーをつまんで開きます (図 2)。
6. サーバーモジュールをシャーシに押し込み、取り外しレバーを閉じます (図 3)。
7. サーバーモジュールが正しく挿入されたことを示す、緑の LED を確認します。

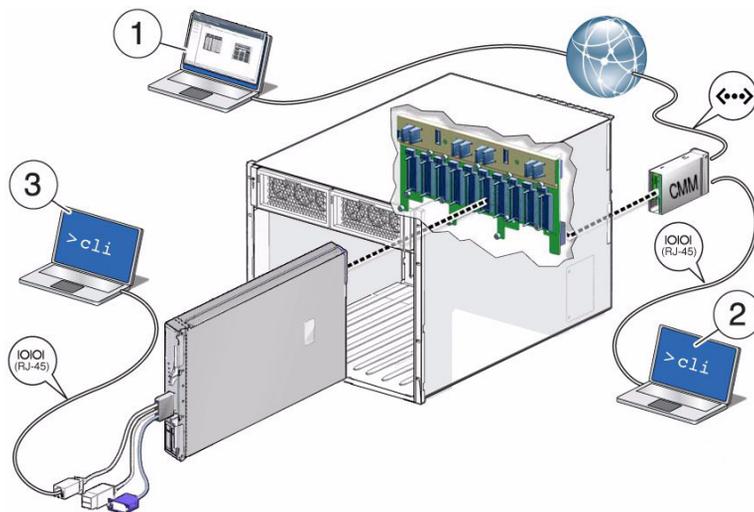
サーバーモジュールが接続されると、スタンバイ電源がサービスプロセッサ (SP) に供給されます。フロントパネルの LED が数回点滅し、フロントパネルの緑色の OK LED が数分間点滅します。電源の入ったモジュラーシステムにサーバーモジュールが接続されるとすぐに、サーバーモジュール SP にメッセージが表示されます。

## ▼ 接続方法を決定する

サーバーモジュール SP で実行されている Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM) ソフトウェアを使用して、サーバーモジュールを起動、ブート、および管理します。SP には、次の図に示すいくつかの方法でアクセスすることができます。

- ◆ 次の図および表に示すいずれかの方法を使用して、サーバーモジュールに接続します。

このマニュアルでは方法 1 と 3 について記載していますが、『SPARC T4-1B サーバーモジュール設置マニュアル』で説明されたその他の方法も使用できます。



方法	接続	説明
1	Ethernet 接続元: CMM NET MGT ポート 接続先: 使用中のネットワーク	CMM NET MGT ポートがネットワークに接続されていることを確認します。ネットワークから、CMM の IP アドレスを使用して、CMM 上の Oracle ILOM にログインします。Oracle ILOM プロキシを使用して、サーバーモジュール SP に移動します。CMM Oracle ILOM CLI または CMM Oracle ILOM Web インタフェースを使用できます。4 ページの「方法 1 – CMM (Web インタフェース) からホストに電源を入れる」を参照してください。
2	シリアル 接続元: CMM SER MGT ポート 接続先: 端末デバイス	端末デバイスを CMM SER MGT RJ-45 ポートに接続し、CMM Oracle ILOM CLI を使用してサーバーモジュール SP に移動します。この方法では、Oracle ILOM CLI のみを使用できます。手順については、『SPARC T4-1B サーバーモジュール設置マニュアル』を参照してください。
3	シリアル 接続元: サーバーモジュール SP UCP ポート ( dongle が必要 ) 接続先: 端末デバイス	dongle ケーブルをサーバーモジュールに接続します。端末デバイスを dongle ケーブル上のシリアルコネクタに接続します (UCP-3 dongle は RJ-45 コネクタ、UCP-4 は DB-9 コネクタを使用します)。CLI を使用して、サーバーモジュール SP。5 ページの「方法 3 – フロントパネル (SP CLI) からホストに電源を入れる」を参照してください。

## ▼方法 1 – CMM (Web インタフェース) からホストに電源を入れる

この手順では、CMM Oracle ILOM Web インタフェースを使用してサーバーモジュール SP にアクセスします。この手順を実行するには、CMM の IP アドレスを知っている必要があります。

1. CMM NET MGT ポートがネットワークに接続され、ネットワーク上で通信するように構成されていることを確認します。  
詳細は、モジュラーシステムのドキュメントを参照してください。
  2. CMM 上の Oracle ILOM Web インタフェースにアクセスします。  
モジュラーシステムと同じネットワーク上のブラウザで、`http://cmm_ip_address` と入力します。  
`cmm_ip_address` は、使用している CMM IP アドレスです。Oracle ILOM のログインページが表示されます。
  3. ユーザー名とパスワードを入力して、CMM で Oracle ILOM にログインします。  
`root` パスワードの出荷時のデフォルトは `changeme` ですが、ご使用の環境では変更されている可能性があります。
  4. シャーシビュー (モジュラーシステムの画像) が Web インタフェースに表示されない場合は、左のナビゲーションパネルから「Chassis (シャーシ)」を選択します。
  5. 次のいずれかの方法でサーバーモジュール SP に移動します。
    - モジュラーシステムのシャーシビュー (画像) で、新しく取り付けられたサーバーモジュールを選択します。
    - 左のシャーシナビゲーションパネルから、新しく取り付けられたサーバーモジュール (「Blade 0 - 9 (ブレード 0-9)」と表示) を選択します。
  6. ログインを求められたら、以下の出荷時のデフォルトのユーザー名とパスワードを入力します。
    - ユーザー名: `root`
    - パスワード: `changeme`
- これで、サーバーモジュールの SP に接続しました。
7. 遠隔コンソールを開きます。
    - a. トップメニューで、「Remote Control (遠隔コントロール)」タブを選択します。
    - b. 「Use serial redirection (シリアルリダイレクションを使用する)」をクリックします。
    - c. 「Launch Remote Console (起動遠隔コンソール)」をクリックします。  
遠隔コンソールにホストメッセージが表示され、サーバーモジュールに電源を入れるときに Oracle Solaris OS をインストールするよう求められます。
  8. サーバーモジュールの電源を入れます。
    - a. 「Remote Power Control (リモート電源制御)」タブを選択します。
    - b. メニューをクリックして「Power On (電源投入)」を選択します。
    - c. 「Save (保存)」を選択します。
    - d. 「Are you sure you want to perform a Power On of the server (サーバーの電源投入を実行してよいですか)」というプロンプトが表示されたら、「OK」を選択します。

これで、サーバーモジュールのホストに接続しました。5 ページの「オペレーティングシステムをセットアップする」に進みます。

デフォルトでは、SP は DHCP を使用して IP アドレスを取得するように構成されています。SP に静的 IP アドレスを割り当てる予定の場合は、オンラインのマニュアルで手順を参照してください。

## ▼方法 3 – フロントパネル (SP CLI) からホストに電源を入れる

この手順では、UCP-3 ドングルケーブルを使用して、サーバーモジュールのフロントに直接接続します。コマンドは、Oracle ILOM CLI を使用して実行します。

1. ドングルケーブルをサーバーモジュールフロントパネルの UCP ポートに接続します。  
UCP-3 ドングルケーブルは各モジュラーシステム (シャーシ) に同梱されています。ドングルケーブルは、一時的な取り付けと構成用のものです。サーバーモジュールにネットワークからアクセスできるようになったらドングルケーブルを取り外します。
2. 端末デバイスを UCP-3 ドングルケーブルの RJ-45 コネクタに接続します。  
端末デバイスを、8 ビット、パリティなし、1 ストップビット、9600 ボー、フロー制御なしに設定します。Oracle ILOM ログインプロンプトが端末に表示されます。
3. 出荷時のデフォルトのユーザー名とパスワードを次のとおり入力します。
  - ユーザー名: root
  - パスワード: changemeこれで、サーバーモジュールの SP に接続しました。
4. サーバーモジュールのホストに電源を投入します。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
```

サーバーモジュールが初期化されます。

5. 通信をサーバーモジュールホストに切り替えます。

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

これで、サーバーモジュールのホストに接続しました。「[オペレーティングシステムをセットアップする](#)」に進みます。

デフォルトでは、SP は DHCP を使用して IP アドレスを取得するように構成されています。SP に静的 IP アドレスを割り当てる予定の場合は、オンラインのマニュアルで手順を参照してください。

## ▼オペレーティングシステムをセットアップする

ローカルの起動デバイスにアクセスでき、Oracle Solaris OS がプリインストールされている場合、ホストコンソールに OS の設定情報を求める画面が表示されます。ローカルからアクセスできない場合、システムは boot net コマンドを使用して、ネットワーク上の起動デバイスを検索します。

- ◆ プリインストールされている OS を設定するか、サポートされている OS を要件に応じて再インストールします。

Oracle Solaris OS の構成プロセスの詳細については、『SPARC T4-1B サーバーモジュール設置マニュアル』およびお使いの Oracle Solaris OS のバージョンのインストールガイドを参照してください。

OS を再インストールする前に、Oracle VM Server の使用を検討します。Oracle VM Server はプリインストールされているシステム仮想化機能で、1 つのコンピュータシステム内に、専用のオペレーティングシステム、リソース、および識別情報を持つ個別の論理グループを作成できます。個別の論理ドメインでさまざまなアプリケーションを実行でき、パフォーマンスおよび安全性のために独立した状態を維持できます。

## ▼最新の OS、パッチ、およびファームウェアを確認する

お使いのサーバーモジュールで、より新しいバージョンの OS、パッチ、およびファームウェアを利用できる場合があります。一部の機能は、特定のパッチまたはファームウェアがインストールされている場合にのみ利用可能になります。最善のパフォーマンス、安全性、安定性を得るために、利用可能な最新バージョンをインストールしてください。

- ◆ この Oracle 製品の『SPARC T4-1B サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。

「[関連ドキュメント](#)」を参照してください。

このドキュメントには、製品の重要な依存関係および最新情報が記載されています。

## 関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
SPARC T4-1B サーバーモジュール	<a href="http://download.oracle.com/docs/cd/E22735_01">http://download.oracle.com/docs/cd/E22735_01</a>
Sun Blade 6000 モジュラーシステム	<a href="http://download.oracle.com/docs/cd/E19938-01">http://download.oracle.com/docs/cd/E19938-01</a>
Oracle ILOM 3.0	<a href="http://download.oracle.com/docs/cd/E19860-01">http://download.oracle.com/docs/cd/E19860-01</a>
Oracle Solaris およびその他のシステムソフトウェア	<a href="http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/#sys_sw">http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/#sys_sw</a>

## フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは次の URL からお寄せください。<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

## サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
電子的なサポートへのアクセス	<a href="https://support.oracle.com">https://support.oracle.com</a>
My Oracle Support	聴覚障害の方へ: <a href="http://www.oracle.com/accessibility/support">http://www.oracle.com/accessibility/support</a>
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	<a href="http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility">http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility</a>

Copyright © 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.



Part No.: E26273-01  
Mfg. 番号: 7017848  
2011 年 11 月